

令和6年（2024年）12月定例議会本会議（12月12日）

都市整備常任委員長報告（所管事務調査・他都市調査）

ただいま議題となっております行政部門別常任委員会の所管事務調査について、都市整備常任委員会における調査の経過と結果を報告します。

委員会は、5月16日、今年度の他都市調査の日程を決定し、6月12日、各委員から提案があった調査テーマについて協議を行いました。

その結果、9月3日、今年度の他都市調査として、福岡県福岡市の「インクルーシブな子ども広場」について、福岡県北九州市の「人工衛星画像とAIによる漏水解析」について、及び大阪府大阪港湾局の「港湾の多機能化（堺泉北港）」について、それぞれ視察することと決定し、10月21日から23日までの3日間で視察を行いました。

また、これを受け、12月2日、視察した内容について委員間で意見交換を行いました。

意見交換の主な内容を申し上げますと、まず、福岡市における「インクルーシブな子ども広場」については、誰もがお互いを理解し、安心して笑顔で自分らしく遊ぶことができる場として定義し、指針

を策定して公園整備を進めていたことが大変参考になったこと、ワークショップなど、障害者自身や有識者の意見を取り入れる場を設けることの重要性について多くの意見がありました。さらに意見交換を重ねた結果、本市においても、インクルーシブな公園の整備指針の策定を検討することも今後必要となってくるのではないかとという点では、委員の意見が一致しました。

次に、北九州市における「人工衛星画像とA Iによる漏水解析」については、調査の効率化という点で人工衛星やA Iの技術を導入すること自体は有用だと思われるものの、現時点において実証実験の段階であることや、精度に課題があることも踏まえ、日々進歩するD X技術や、他都市の実績等を研究した上で、検討していく必要がある、という意見が多くありました。

次に、「港湾の多機能化」について視察した堺泉北港は、規模が大きく、本市との単純な比較はできないものの、ポートセールスの積極性については見習うべきという意見が多くあり、また、航海士の女性割合が著しく低いなど、港湾業界におけるジェンダー平等という観点での課題の指摘もありました。さらに、本市においては、地域性や地理的特性を勘案した横須賀らしい港の在り方を検討する

ことが大事で、産業と物流の関係を見極めることや、イベントなどの観光事業を充実させることによって港の発展につなげていくなどの視点も重要であるといった意見がありました。

以上のとおり、委員から様々な意見があり、このたびの所管事務調査で得た知見は、今後委員がそれぞれの議会活動に活かしていくこととし、本調査を終了します。

以上で報告を終わります。